

平成 27 年度 静岡県私学進路指導専門委員会県外視察研修会報告

日時：平成 27 年 11 月 16 日

場所：山梨英和中学校・高等学校

目的：ICT 教育の導入・積極的推進や、中高一貫校のメリットを生かした進学実績の向上など、実践的な取り組みについて学ぶ。

学校概要：

創立 126 年

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）認定校 *2013 年より

姉妹校：国内（東洋英和女学院、静岡英和女学院）

海外（韓国、オーストラリア、ドイツ）

教育の特色：

- 1) キリスト教教育
- 2) 女子教育
- 3) 英語教育
- 4) 国際教育
- 5) ICT 教育
- 6) ユネスコスクール

ICT 教育：

・ iPad 利用

現在中学 2 年生から高校 2 年生まで利用

生徒および教員とも iPad は個人購入

・ 授業見学

1) 中学 2 年生（英語）

生徒が iPad で見られる画面をホワイトボードのようなものにも投影。

SVOC の練習

①上記構文をとる V を挙げる。

②iPad 上に示されるイラストを①の V を用いて SVOC の文で表現する。

生徒は周囲の生徒と協力しながら作成にあたる。

③教員は生徒が文を作成している時に机間巡視をしながら質問などに対応する。

④各自作成した文を iPad に録音し、教員に提出（送信）する。

⑤教員は後で 1 人 1 人のものを聴いて採点しコメントの返信をする。

2) 中学 3 年生（英語）

英語劇（1 月に発表）の翻訳作業

①教員の方でいくつかの英文の劇を用意する。

②各班に好きな劇を選ばせる。

③内容を理解するために日本語に翻訳する。

④意味の分からない単語などはグーグルの翻訳ソフト等を用いて調べる。

ネット検索で用が足りるので電子辞書を購入する生徒はほとんどいない。

3) 高校 1 年生（世界史）

ベルリン封鎖

①ホワイトボードに映し出した 1 枚の写真を見せて、何を感じるか答えさせる。

②教員が「ベルリン封鎖」というキーワードを提示し生徒に iPad で調べさせる。

中学生とは違い、生徒は静かに 1 人で iPad 検索をしていた。

iPad 検索を一斉に行ったせいか、生徒によっては画面が表示されるまでに多少時間がかかる生徒もいた。

③検索内容を生徒に発表させ、その後教員の用意したプリントにキーワードを記入していく。

4) 高校1年生(数学)

反転学習

①生徒はiPadに映し出される3~4分程度の説明を読んだり聞いたりして、配布されたワークシートを完成していく。

iPadの教材はベネッセのものを使用。

通常はこの作業は自宅で予習としてやってくるもの。

②教員は机間巡視をしながら生徒の質問等に対応する。

・iPad活用

①姉妹校の生徒とのTV電話を通して英語を教わったり日本語を教えたりしている。

iPortfolio(会話の内容を書き起こす)作成

②iPadの発音アプリを用いての発音矯正

③グーグルドライブ、iTunesドライブなどを利用している。

iTunesU(公開、非公開)での糟谷先生(英語)の受講者は1,400人にのぼる。

④使用上のルール作り

・Family, Friend > iPad

・iPadは教科書と同じ

・使用は22:00まで

・ゲーム、SNSはダウンロードしない

・メール、TV電話などの使用も20:00まで

(受験アプリの利用者は家庭に利用時間を任せる)

⑤その他の活用例

デジタル学年通信、iBooksの利用、ポスター作成、修学旅行、欠席者への欠席した授業の確認用など。

⑥「つながる力」「伝える力」「自ら学ぶ力」を身に付けて高校への進学を図っている。

その他:

- ・ICT教育は英語科教員が引っ張っている部分が多い。
- ・クラスにいるiPad委員の生徒と話し合いを持ちながらルール作り等にあたっている。
- ・家庭科や理科などは動画を見せると授業がより効果的に行える。
- ・ICT教育の成果を保護者に見てもらい理解を得る。
- ・オープンキャンパス等では受験生に実際に体験してもらう。

報告者: 専門委員 日本大学三島高等学校・中学校 谷口富太郎

1 視察先 山梨学院大学附属中学校・高等学校

2 視察日 平成 27 年 11 月 17 日

3 山梨学院大学附属中学校・高等学校について

- I 沿革
- 昭和 21 年 山梨実践女子高等学院として創立
 - 昭和 31 年 山梨学院短期大学附属高等学校設置認可
 - 昭和 37 年 山梨学院大学附属高等学校と校名変更
 - 昭和 50 年 山梨学院大学附属高等学校英語科増設認可
 - 平成 8 年 山梨学院大学附属中学校開校
 - 平成 27 年 高校が進学重視セメスター単位制へ移行

II 建学の精神

「品格品性に富む豊かな心を涵養し、気魄をもって広く世界に知を求め、輝かしい未来を拓く
たくましい人材の育成」

III 定員

高等学校 普通科 360名×3学年（男女共学 内部進学を含む）

中学校 111名×3学年（男女共学）

高校には特進コースと進学コースが設置されている。

特進コースは難関国公立系、国際アカデミック系（2016年開設予定）、国公立系、グローバル系、私立文系と細分される。国公立大学への合格者のほとんどは特進コース出身である。

進学コースではバランスのとれた人間性を育むため学習と部活動の両立を重視している。野球、駅伝、サッカーなどの部活動も盛んで全国レベルで活躍し、約 300 名が寮生活をしている。

IV 合格実績（2015年3月）

東京大 1 名 一橋大 1 名 山梨大医学部医学科 7 名 国公立大合計は 50 名

早稲田大 7 名 慶應義塾大 4 名

これまでは成績上位者の目が東京大学に向いていたが、近年は医学部を志望する生徒が増えている。山梨大医学部医学科の地域枠入試では合格者 35 名中、7 名が山梨学院高校の生徒であった。保護者も医学部志向が強いが山梨学院高校としては東京大学への合格者を増やしたいと考えている。有名私大への進学は保護者からの注目度はあまり高くなく、学校方針として東大の次は旧帝大レベルへの合格を目標としている。

4 視察内容

(1) 授業見学

- ・化学の授業 溶解度の問題演習
黒板の半分にプロジェクター画像を投影 問題を提示する。
- ・日本史の授業
念仏や題目の音声をパソコンを使って流し、印象を強める。

(2) 校内見学

特進コースおよび中学校の校舎を見学

(3) 説明・懇談 吉田副校長 甲田副校長

山梨県は静岡県と同じく公立志向が強い県である。この環境の中で 30 年後に学校が生き残るために、ということを考えてさまざまな制度を導入している。

①プロジェクターの導入

全教室に設置され、授業に活用されている。今回見学した授業でも使用されていた。黒板の半分が投影用のスクリーンになっている。また、天井に設置されているため、鋭角に投影され、

画像が教員の陰になることがないように工夫されている。

導入前の3月には教員対象に使い方の研修が行われ、4月からの導入に備えた。非常勤職員に対してもプロジェクターの使用を徹底し、1時間に少なくとも1回は使用する機会をつくるようにしている。若手の教員は、使用方法の工夫が進んでいる。

②教科センター方式の導入

教科センター方式とは欧米の学校で行われている、教科ごとに生徒が移動する方式である。ただ、高校では定員を超える生徒が在籍していて、教室が足りず実現できていない。今後の導入を目標としている。現在は中学で導入されている。階ごとに教科用教室が配置されていて、今回は英語用の教室を見学した。廊下側の壁は半透明になっていて、中の様子をうかがうことができる。扉は可動式で複数の教室を一体化し、大教室として使うこともできる。英語用教室前の廊下は英語教員のスペースになっていて、机も置かれ仕事ができるようになっている。

階段の踊り場も工夫され、例えば理科教室に向かう途中には元素周期表が掲示され「教科に取り組む雰囲気づくり」がなされている。

③単位制とセメスター制の導入

前期（4月～10月上旬）と後期（10月中旬～3月）までの二期制を導入している。単位は半期で取得できるようになっていて留学を考える生徒にも対応しやすい形になっている。

④国際バカロレア（IB）認定

山梨学院高校では2017年の認可を予定している。IB認定校において所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると国際的に認められる大学入学資格を取得できる。これにより、卒業後国際的に活躍する人材の育成につなげていくことを考えている。

文部科学省は2018年までにIB認定校を200校に増やす目標を発表していて山梨学院高校もその1つである。国内の各大学では入学者選抜においてIB枠を設けグローバル化に対応した入試改革を進めている。

報告者：専門委員 磐田東中学・高等学校 村田秀寿